１　基本的な生活習慣

国立教育政策研究所生徒指導研究センターがまとめた『生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導』（平成１５年７月）の「日常の生徒指導の諸問題」に次の一文がある。

> 家庭や地域社会における教育力の低下に伴って，子どもに対して基本的な生活習慣や社会規範などが身に付いておらず，そのことが問題行動等の背景・要因となっていることが指摘されている。

また，小学校学習指導要領解説道徳編では，児童生徒の道徳性の発達に係る社会状況を次のように分析している。

> 家庭や地域が今日に至るまでに果たしてきた教育機能が著しく低下していることがある。すなわち，基本的なしつけや人としてしてはいけないことの指導や善悪の判断，そして思いやりや譲り合いの精神などは，本来家庭や地域ではぐくまれてきた。しかし，今日の家庭や地域においては，少子化がますます進み，地域に根ざした共同体も弱体化の方向に加速していることなどから，そのような機能が果たせなくなってきている。

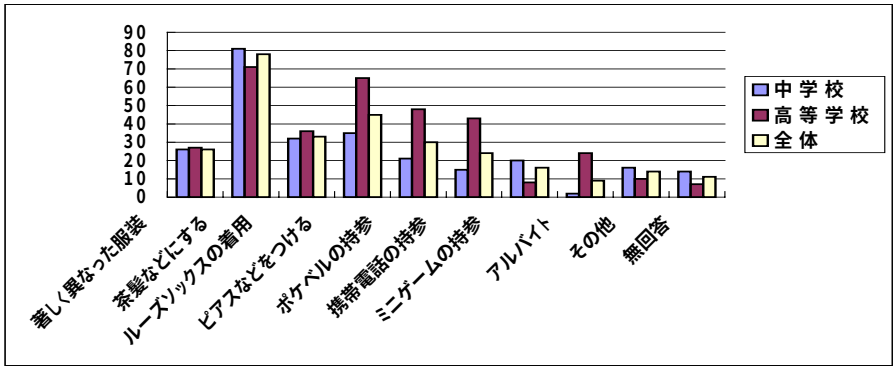
このように，児童生徒の問題行動が深刻な状況となっている要因の一つに，家庭・地域の教育力の低下があげられる。それに伴って，子どもたちの発達段階に応じて身につけておかなければならない「あいさつをする」「時間を守る」「物を大切にする」といった基本的な生活習慣が十分身についていないという実態がある。

これらに起因するものとして，本項では，次の問題行動を取り上げている。

（１）　頭髪や服装の乱れ
（２）　遅刻
（３）　不要物の持込み
（４）　怠学（エスケープ）
（５）　挨拶，言葉づかいの乱れ
（６）　その他（ルールを守らない）

これらの問題行動に対しては，これまで家庭との連携を図りながら個別指導を中心として対応してきた。また，学級での全体指導を通して再発を防ぐよう指導して　きた。これらは，いわゆる消極的な生徒指導と呼ばれる対処的な指導であるが，今後は，これまでも行われていた問題行動を未然に防ぐ手立て，いわゆる積極的な生徒指導に道徳の時間を積極的に活用した指導を加えて，より効果的な生徒指導を模索していきたい。

校則について問題となっている事項



全国中学校長会・全国高等学校長協会
「日常の生徒指導の在り方に関する調査報告書」（平成 10 年 3 月）